



Between Yesterday and Tomorrow

Detanico Lain

Between Yesterday and Tomorrow

Detanico Lain

昨日と明日のあいだ

デタニコ レイン

太平洋の中心には一本の線が引かれている。それは時間を昨日と明日へと分かť線だ。この線は自然ではなく文化が生み出したものだ。その線は直行ではなく屈曲している。様々な島や領土を収めようとしてその線は右往左往している。それは時間を別々の日付へと分かťが、その両側では同じ時間が共有されている。この線をまたいで、昨日が明日に、明日が昨日に転じるのだ。

この展示はひとつのランドスケープとして構想されている。それはウンベルト・エーコの『前日島 (*L'isola del giorno prima*)』のように日付変更線をまたいだ、とある人工の島の風景だ。そこは時間の経過を刻む様々な自然の要素を眺めるための場所である。

時刻は夜明け。抜けるような夜空の向こうから新しい一日が始まろうとしている。右手では太陽が昇り出し、左手では星々が沈み行く。その風景の中心には、瞑想のための場所がある。

「Structure」はその単語を示す、アルファベットによって構築される形態からなる、言語アーキテクチャーである。たとえば最初の部分は「S」を示し、次の部分は「T」を示すというように、この作品は26文字のアルファベットを表記するために10cmから260cmにまで長さが変化するシステムとなっている。

この「Structure／構造」は空間を編成する。観客はその周辺や内部を歩き、様々な視点を見つけ出す。その視点のひとつひとつが、ある特定の時間における、ある特定の場所なのだ。

「Between Yesterday and Tomorrow／昨日と明日のあいだ」と題されたインスタレーションは、一本の光の線によって空想の日付変更線を物質化するものである。ふたつの日付へと分かťたれた空間は、ひとつの同じ時間をなおも共有している。それは触れることのできない自然界の様々な循環の確かな実在と深い神秘を示唆している。時間は移ろいの中にあり、それゆえに空間もまた移ろうのだ。

太陽が昇る。白線が横切る黄金のパネルの上に私たちはその光を見る。世界中に存在する数々の独自の文化の多様性のように、その光は多様な言葉や意味やジェンダーの中で輝いている。太陽は様々な言葉を通じて美と力と生命を意味する。それはサンスクリット語で「Surya」、モンゴル語では「Nara」と呼ばれている。これらの言葉は、謎の一端を担うものとして、同一の発光体によって輝く一文字のアルファベットとして表記される。

空は鏡のようなものである。私たちは夢や希望を空に投影し、空を私たちの世界の一部とするためにそれに「空」という名前を与えた。古代から人々は星を眺めてきた。様々な星に様々な名前が与えられた。天文学の伝統は文字の誕生と比しうる長い歴史を有している。

私たちが宇宙について知っていることはほんの僅かでしかない。一瞥しただけではどの星もほとんど同じものに見える。しかし、それぞれの星は大きさも輝きも少しずつ異なっているのだ。そのすべてに同じものはふたつとなく、そのひとつひとつに固有の名前が与えられている。中国の神話「牛郎織女」のように、古代より人は神話や伝承から星を名付けてきた。

「Star Names」は星の名前の表記に基づいて創出されたイメージである。それぞれの文字はソリッドな円形へと変換されている。ストロークの回数と規模の違いによって大小の様々なかたちが生まれ、どの文字にも独自の形態が与えられている。新たな円形が次々と重なりあうことで、黒い背景にまばゆい白の層が生じる。闇の中で様々な輝く光の輪は、視界の中でひとつのものへと変わる。

あらゆるものには何らかの意味がある。枯山水の砂紋にはこの感覚が反響している。瞑想の眼を通して眺めてみれば、その文様は乾いた石粒の表面に反射するまばゆい光を露わにするものであることがわかる。より深く没入すれば、音さえも聞こえてくるだろう。ランドスケープは自らを「Sense／感覚」として創り出すのだ。

Between Yesterday and Tomorrow

Detanico Lain

There is a line in the middle of the Pacific Ocean. A line that divides time into yesterday and tomorrow.

This line is not natural, it is cultural. It is not straight, but broken. It goes right and left to accommodate islands and territories. It divides time in different days, though both sides of the line share the same hour. It turns one day into another.

This exhibition is conceived as a landscape. An artificial island crossed by the International Date Line, as *L'isola del giorno prima* from Umberto Eco. A place to observe natural elements pacing the passing of time.

It is dawn. A new day is coming after a clear night. The Sun rises on the right, the stars set on the left.

In the center of the landscape, there is a place for contemplation.

Structure is a language-architecture, a form constructed according to the alphabetical order to write its own name. The first segment corresponds to the letter S, the second to the letter T, and so on, according to a progressive system that ranges from 10cm to 260cm segments to write the 26 letters of the roman alphabet.

The sculpture/structure organises the space. One can go around and through it, finding different points of view. It is a given place in a given time.

The installation Between Yesterday and Tomorrow is a line of light that materializes the imaginary Date Line. It symbolically divides the space in two different days, though time been the same. It tells about the intangibility of natural cycles, so present and so mysterious. Time is transitory and thus is space.

The Sun rises. We see its light on the golden panels crossed by white lines. It shines in different names, meanings, genders, as plural as the many singular cultures around the globe. It is beauty and power and life in different words. It is called Surya in Sanskrit and Nara in Monguour. As parts of a puzzle, those names are written in a radiant alphabet, coming from the same bright body that irradiates light.

The sky is like a mirror. We see our dreams and hopes reflected on it, we name it to make it part of ourselves. Stars are observed since ancient times. They were given names. The tradition of astronomy is as long as the as the invention of writing.

We know so little about the stars. At a first glance, they look almost the same. But they have little differences in size and brightness. They are all unique, and they have their own names. Names from myths and legends, from the ancient world, as the Weaver Girl and the Cowherd.

In the Star Names, an image of a star is created from its written name. The form of each character collapses into a solid circular shape. Characters are unique: the number and size of strokes generate different shapes, bigger or smaller. The new circular forms are piled on top of each other, in layers of bright white over a black background. They form a whole visual body, shining on the dark with rings of different intensities.

Everything means something. The pattern of the dry landscape garden echoes this feeling. Seeing from the contemplation point of view, it reveals its design, the silent reverberation of dry drops of stone. At a closer look, one can listen: the landscape spells itself as Sense.



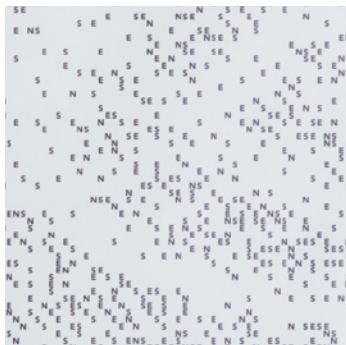
nara (radiante)

Golden leaf and white paint on wood (4 parts)
150×200 cm, 2019



surya (radiante)

Golden leaf and white paint on wood (5 parts)
150×250 cm, 2019



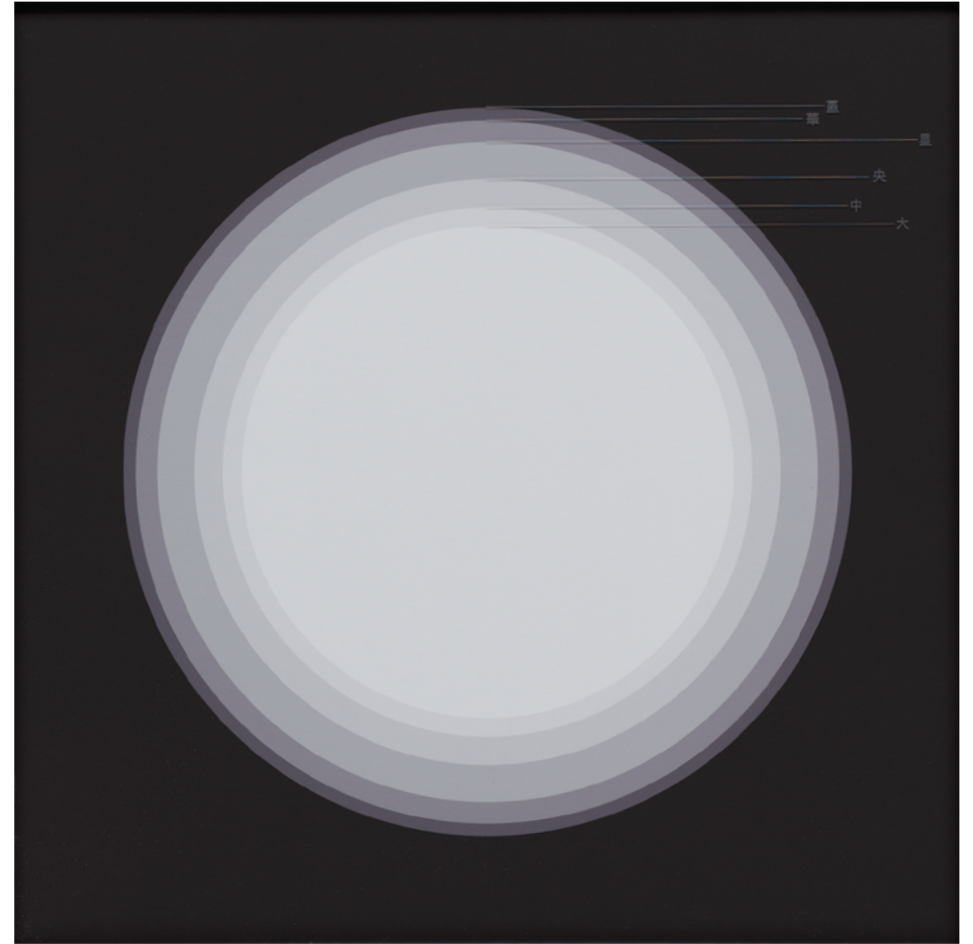
sense (gardens)

Ink-jet print on kozo awagami paper
76.5×114 cm, 2019

structure

Metal structure, matte black paint
1.200×h.220×d.460 cm, 2019

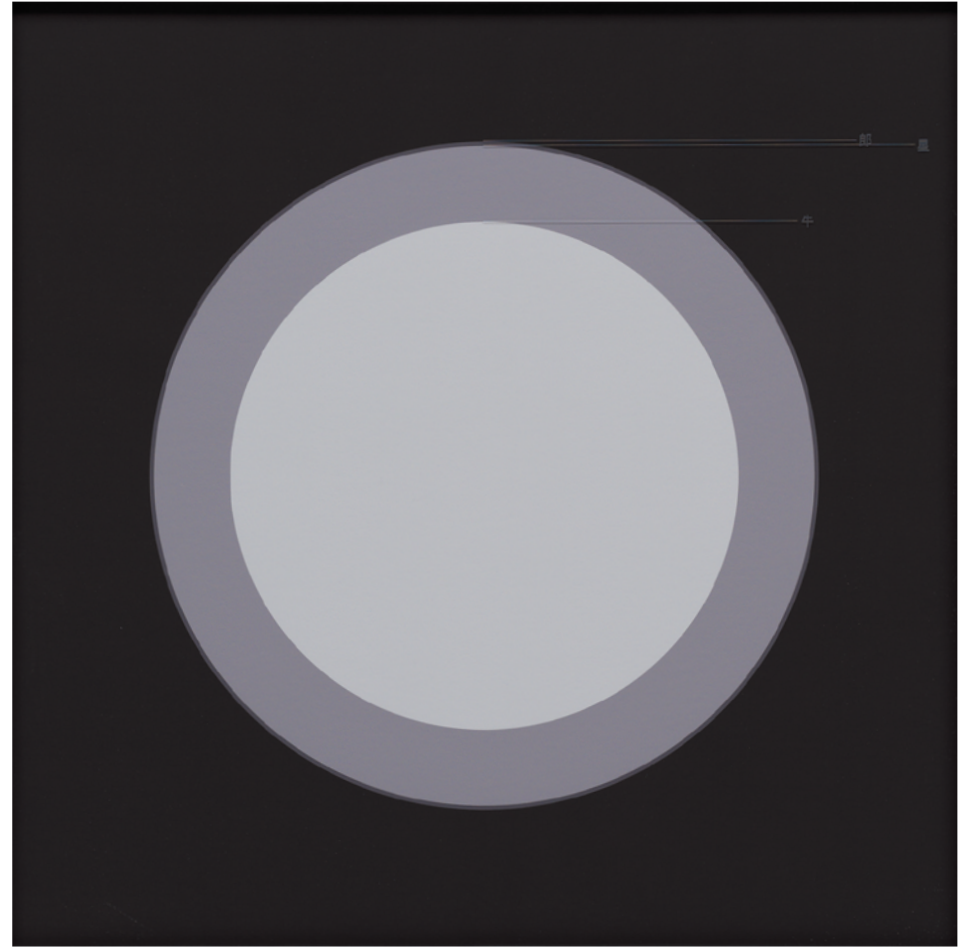




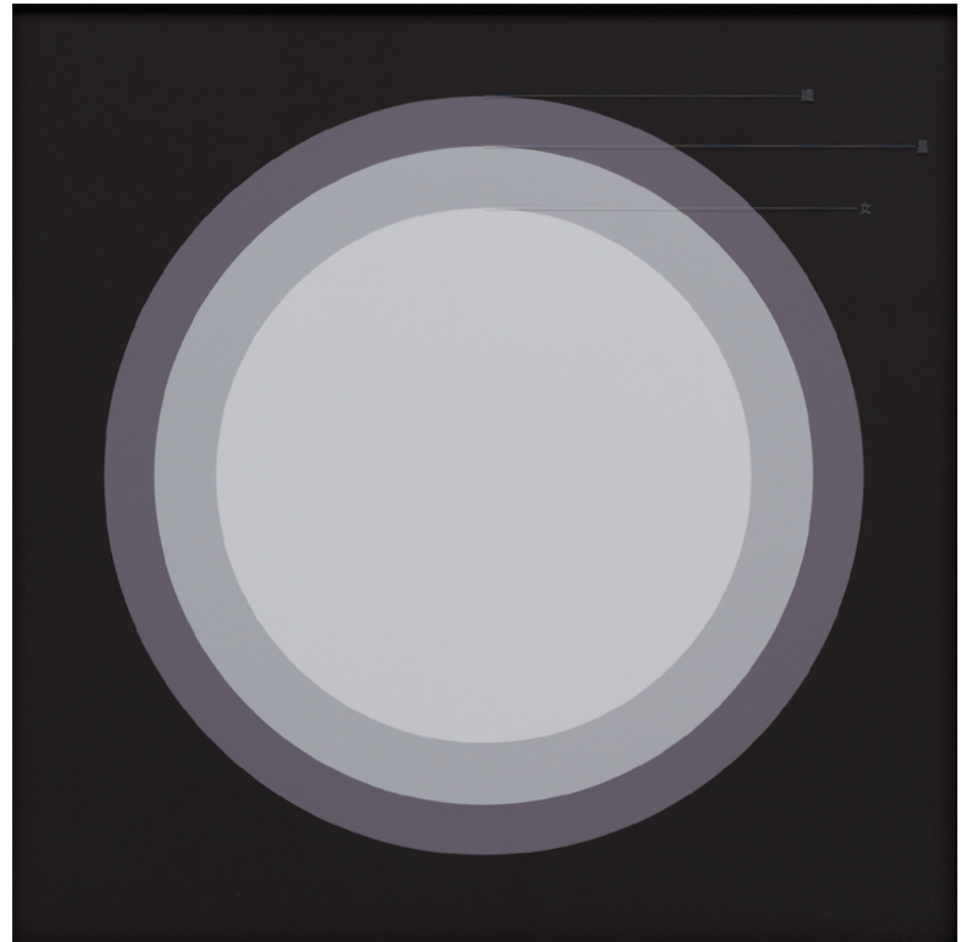
華蓋中央大星 (eastern star names)

Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019

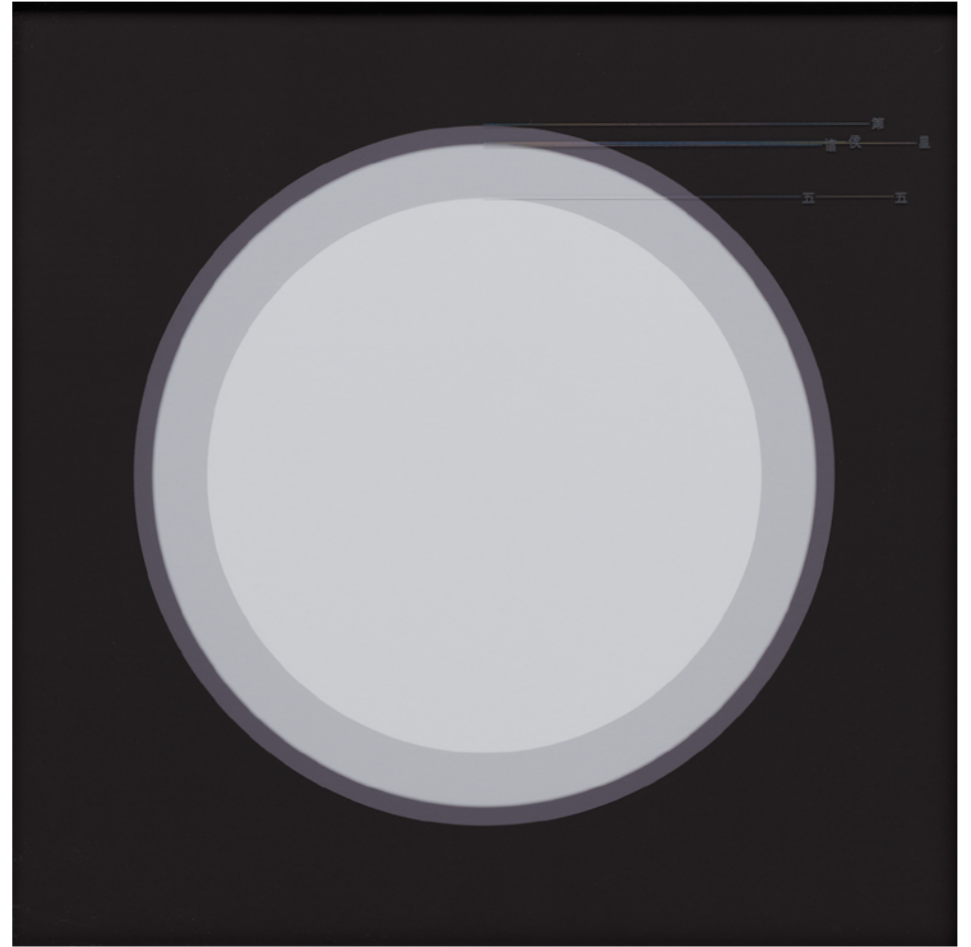
牛郎星 (eastern star names)
Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019



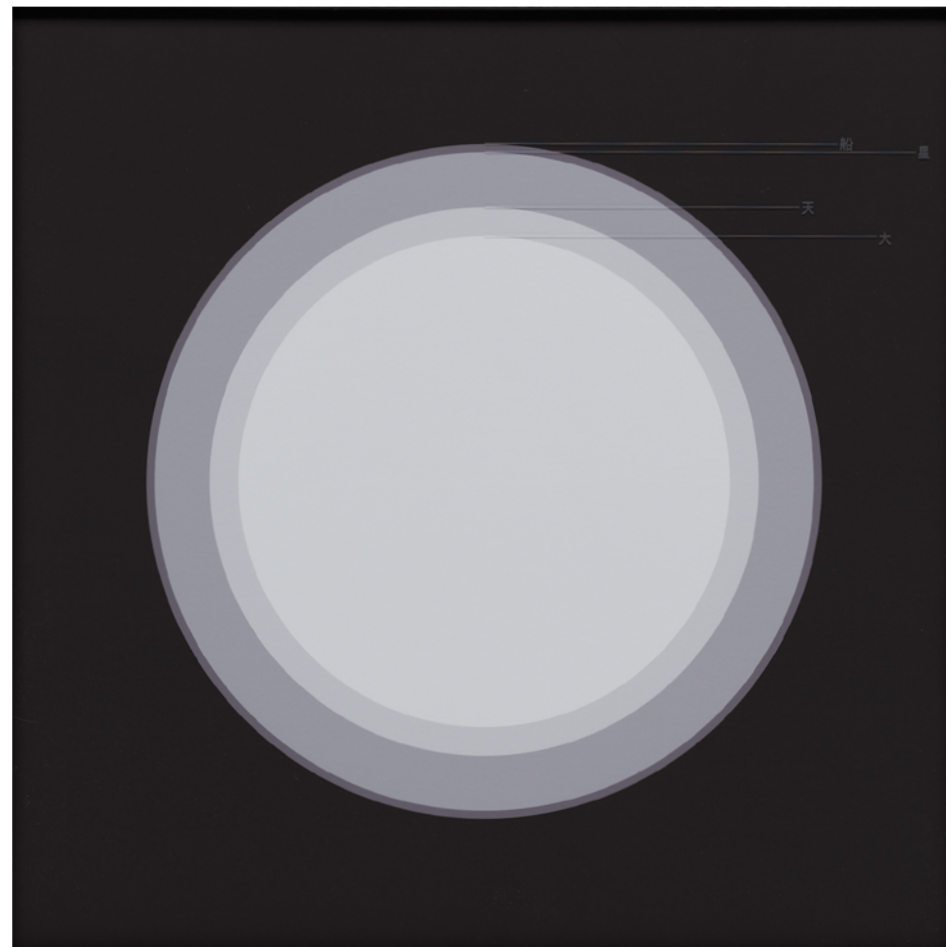
織女星（eastern star names）
Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019

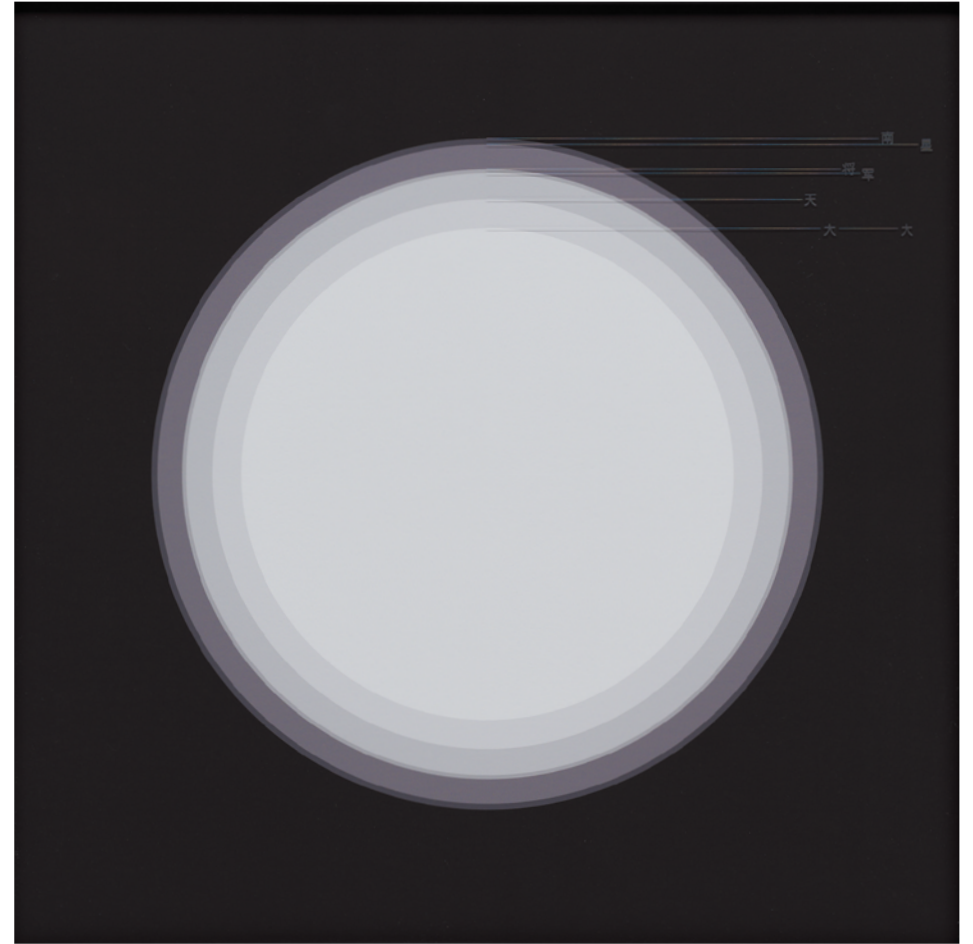


五诸侯五星 (eastern star names)
Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019



天船大星 (eastern star names)
Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019



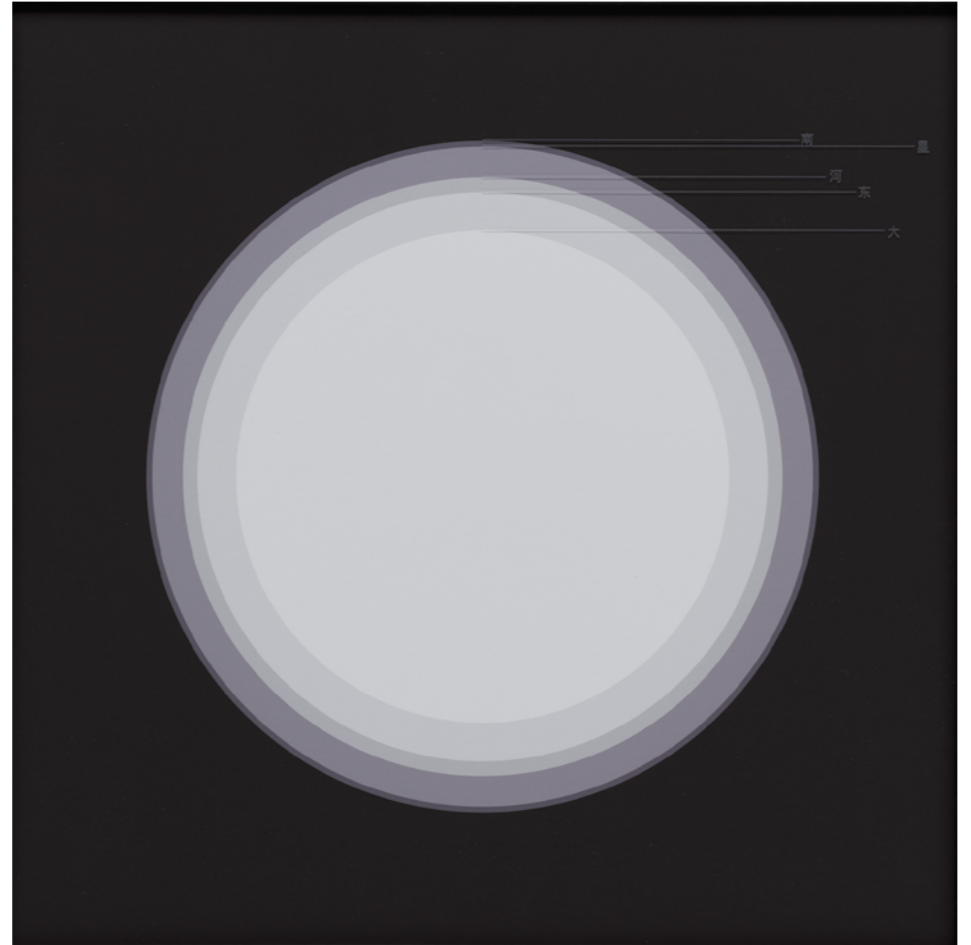


天大将军南大星 (eastern star names)

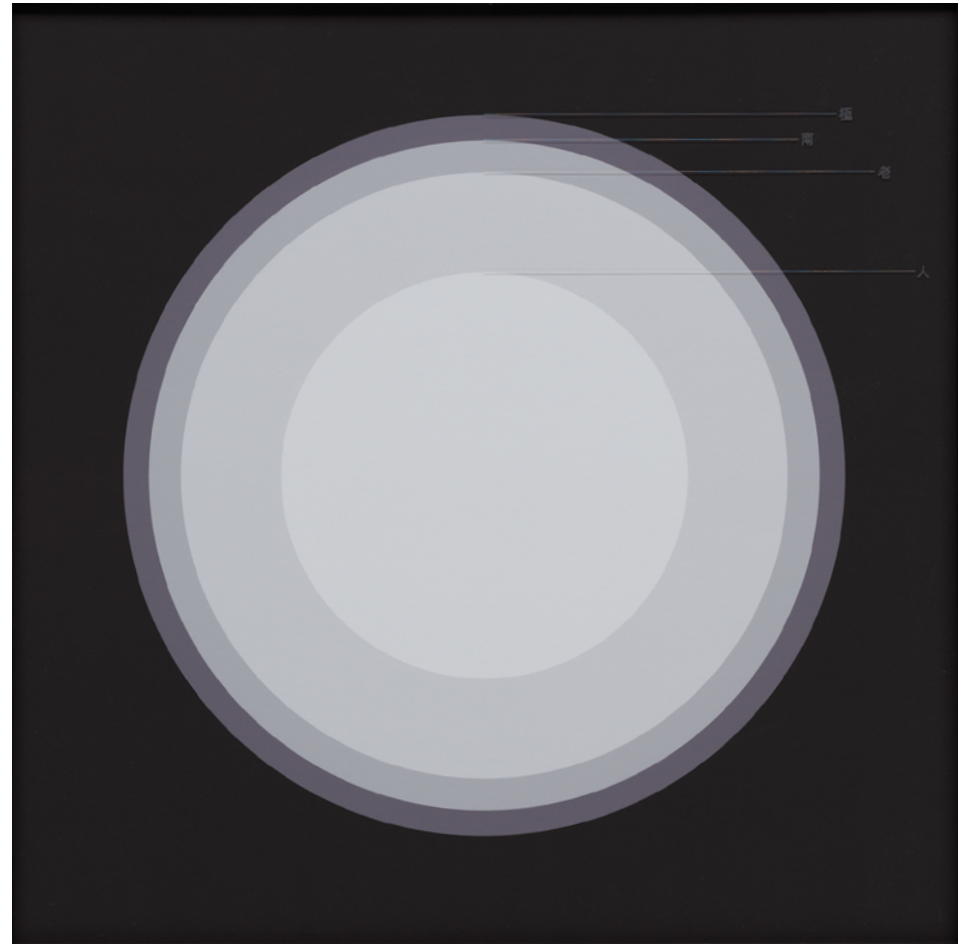
Ink-jet print on paper, engraved plexiglass

41×41 cm, 2019

南河东大星 (eastern star names)
Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019

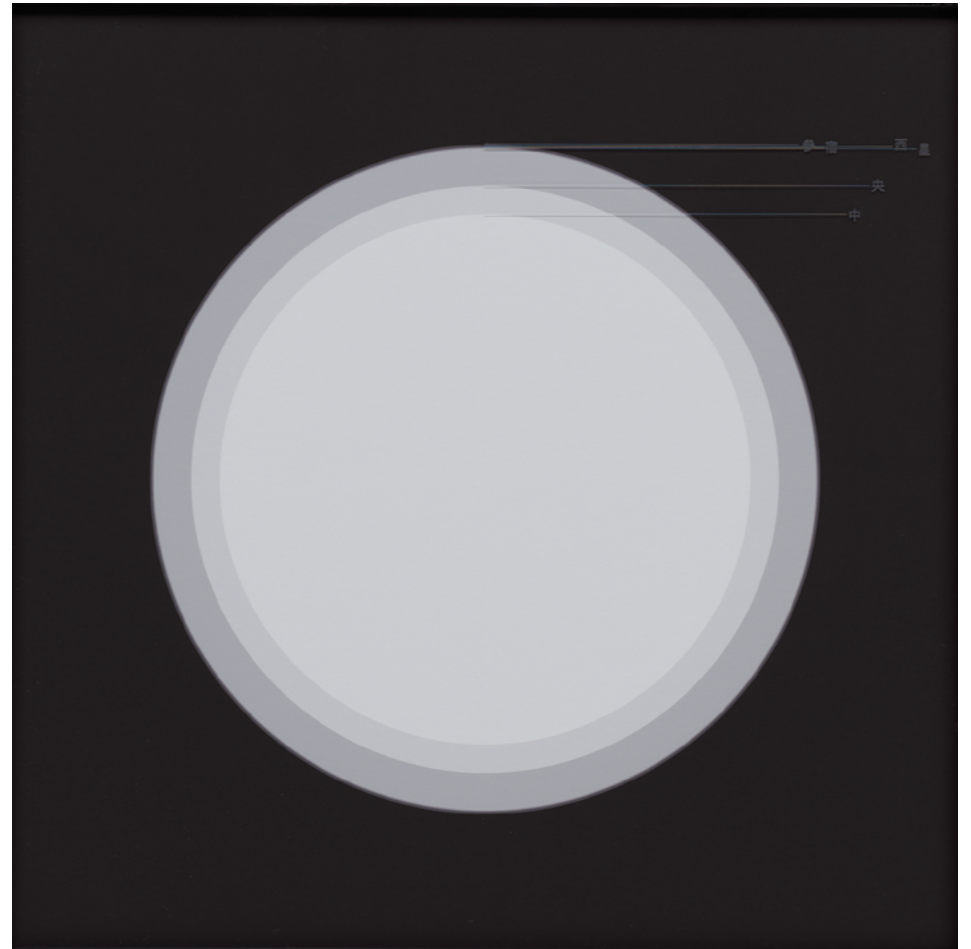


南極老人 (eastern star names)
Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019

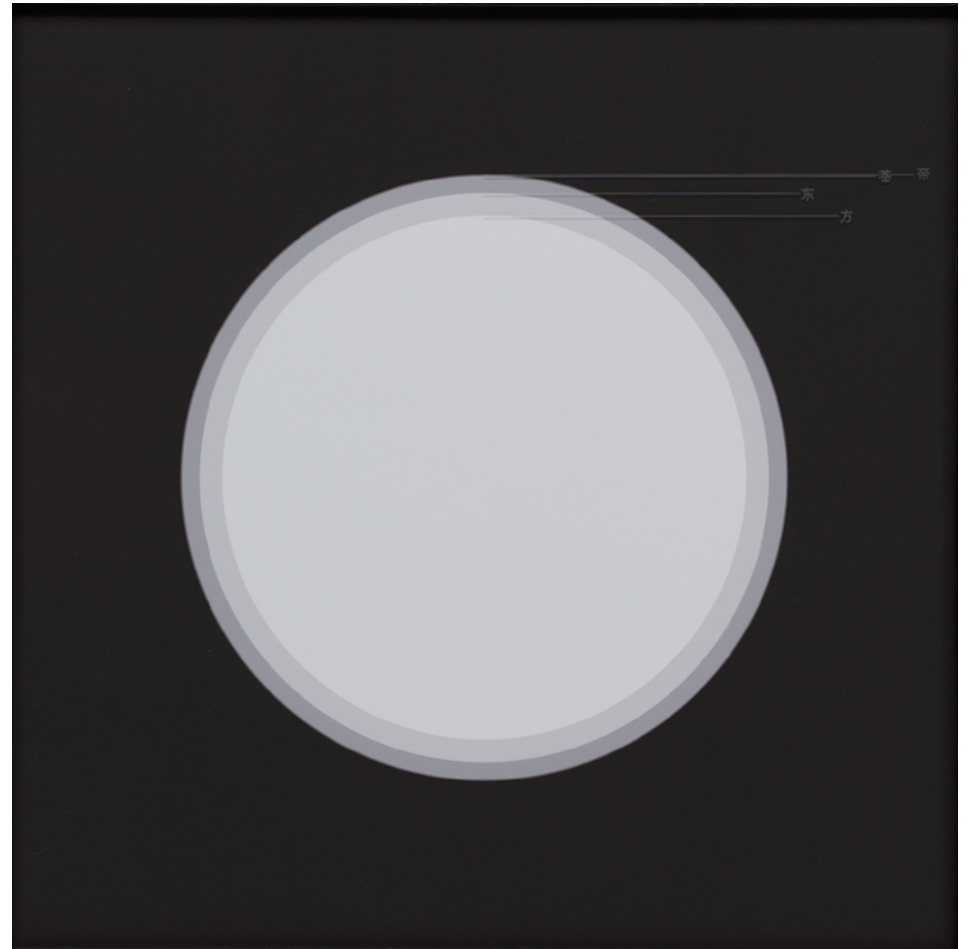


参宿中央西星 (eastern star names)

Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019



东方苍帝 (eastern star names)
Ink-jet print on paper, engraved plexiglass
41×41 cm, 2019



時間のマッピング

早稲田大学 国際学術院 国際教養学部
国際コミュニケーション研究科 准教授
エルバー・ペドロ

「われらはひとつのしるし、解くべくもなく (*Ein Zeichen sind wir, deutungslos*)」
—フリードリヒ・ヘルダーリンが1803年の詩「ムネーモシュネー」に残した言葉である。シュ
ヴァーベン出身の詩人ホルダーリンが生涯を通じて取り組んだ言語と表象の限界は、様々
な面において、近代詩学のエトスを導いたといえるだろう。感覚をめぐる果てのない足掻
きは常に根本からのやりなおしを強いられるものであり、その試みは人間存在の根源的な
虚無を幾度となく暴き出しながら、度々論じられる「この世界に基準というものはない
(*Gibt es auf Erden ein Maß? Es gibt keines*)」というヘルダーリンの言葉へと、どうしよう
もなく回帰してくるのだ。

ヘルダーリンのこれらの言葉は、近代詩の歴史における言語の抜本的な革新を目指した
様々な試みに残響しているといえるだろう。シャルル・ボードレーールとステファヌ・マラルメ、
エズラ・パウンドと E・E・カミングス、そして、ブラジルの具体詩とそこで無数に派生し
た言語と視覚による様々な詩作というすべての道のりを照らしているのは、ヘルダーリンが
抱えていたような言語の核心に迫ろうとする意思なのだ。

アンジェラ・デタニコとラファエル・レインによる意味の根源をめぐる果てなき探究、人類
の自然との遭遇をマッピング・解説・再暗号化する様々なコーディング・システムの飽くな
き創造、そして、あまりにも人間的なあらゆる基準・規範・指標と地球の多元的な関係を
めぐる理論的・物質的な追求は、やはりこれらの先達たちと同じ衝動に導かれた軌跡だ
といえるだろう。デタニコとレインの作品に物質化された詩的体験は、それ自体が自然の
言語を人間の言語へと翻訳しようとする試みであり、これまで人類が築いてきた様々な言
語は、新たに創発されたコード群の拡張する多様性へと変換されるのである。あたかも、
少なくともヘルダーリン以降の近代の詩的体験の活力源となった翻訳の衝動に、彼らの作
品のひとつひとつが物質的なかたちを与え、そこにもうひとつの翻訳のレイヤーを重ね合
わせているかのようである。すなわち、それは詩の領域から現代美術の領域への翻訳なのだ。

真の翻訳というものは、一般的な理解に反して、ふたつの既存の言語のあいだに成立する
ものではない。むしろ、真の意味における翻訳とは、そのたびごとに新たな言語領域の
境界を確立するものであり、言語間の限界に線を引き、その対応関係を新たに創出するも

のなのである。この意味における翻訳の言語に対する関係は、その本質において、自然
の上に形態と境界と秩序を重ね合わせるマッピングの実践に似ている。翻訳の忠実性とは、
翻訳のこの根源的なマッピング機能、すなわち言語的な領域間に境界を定めることを根底
としてようやく語りうるものなのだ。その前提に立つことで初めて、翻訳が「オリジナル」
に対して正確であるとか、逐語的であるとか、あるいは自由であるということを論じること
ができるようになるのである。

「Between Yesterday and Tomorrow」はこのマッピングの試みを中心に据えた展示であ
る。日付変更線をまたぎ、昼の明るさと夜の暗さに隔てられ、西と東に分かれた架空の島
へと、来場者は上陸することになる。その空間には、地球の時間に人類の尺度を与える行
為と、それによって空間に時間をマッピングすることの恣意的な起源についての秘密が隠
されている。それは無人島というよりも建築的に計画され構築された人工島であり、瞑想
のための場所である。私たちははたしてそこに住むことができるのだろうか？

この人工島の中心を貫く日付変更線は、翻訳というものの象徴的な場として現れている。
その想像上の境界線は翻訳を可能性にする条件そのものでもあるのだ。そして、分割され
た複数の時間がひとつの詩的な瞬間において邂逅し融合する場として、そこには根源的な
共時性が潜んでいる。

デタニコレインのマッピングとコーディングに対するアプローチは記号論と自然科学の知見
に基づいているが、それは決して単純な科学主義ではない。ホルヘ・ルイス・ボルヘスの
地図作製法はひとつの帝国の実寸大の地図を描きあげることで、まるで空想と現実の理想
郷的な霊的交渉ともいえるものを通じて、各々の記号を実際の場所へと精緻に一致させた。
デタニコレインの地図はボルヘスとはまったく別種の精緻さに貫かれている。彼らの作品は
人類による世界の表象そのものの本質的な恣意性を問い直し、時間と空間に引かれた習
慣的な境界線から創造的な意味生成の衝動を意識的に開放しようとするのである。禅庭
の岩場の波のあいだでこれらの作品が私たちに示すものは、平穏な自然のイメージではな
く、常に逃れゆく「感覚」という、人類の科学と詩が追い求めてやまないものである。

Mapping Time

Pedro Erber

Associate Professor

Faculty of International Research and Education

Graduate School of International Communication Studies

School of International Liberal Studies

Waseda University

"A sign are we, senseless (*Ein Zeichen sind wir, deutungslos*)," wrote Friedrich Hölderlin in 1803, in the poem "Mnemosyne." The Swabian poet's persistent experience of the limits of language and signification heralds, in more than one way, the ethos of modern poetics. The unrelenting struggle for sense as an operation that must always recommence again, repeatedly revealing the fundamental senselessness of human existence, returns in a peremptory fashion in this much-discussed passage of Hölderlin's "In Lovely Blue" (1808): "Is there a measure on earth? There is none (*Gibt es auf Erden ein Maß? Es gibt keines*)."

Much could be said about the resonance of these verses throughout the history of modern poetry, in its multiple attempts at a thorough renewal of language. The same radical motivation illuminates the trajectories of Charles Baudelaire and Stéphane Mallarmé, Ezra Pound and E. E. Cummings, all the way through to the "verbivocovisual" poetics of the Brazilian concretists and the myriad ramifications of their work.

This same impetus informs and shapes the artistic trajectory of Angela Detanico and Rafael Lain, in their continuous search for the origin of signification, their incessant creation of coding systems that map, decipher, and re-cipher our encounters with nature, and their theoretical and material exploration of the manifold relationships between the earth and its all-too-human measures, norms, and patterns. The poetic experience materialized in their works constitutes itself as an effort of translation—translation from the language of nature into the language of humans, translation of existing human languages into an expanding variety of invented codes—as if each of their works strives to confer material shape on the translating impetus that, since Hölderlin at least, animates the modern poetic experience, thus adding to it yet another layer of translation; namely, the translation from the realm of poetry to that of contemporary art.

True translation, in contrast to its common representation, does not take place between two previously existing, ready-made linguistic realms. On the contrary, each time, true translation must establish the boundaries of a new linguistic territory, demarcating the limits

between languages, so that a relationship of correspondence can first be created. As such, translation's relationship to language is, at its very core, like a mapping practice that traces form, limits, and order onto nature. Only on the basis of this original mapping function of translation, this drawing of boundaries between linguistic territories, can one speak of its fidelity; only on this basis can a translation be said to be exact, literal, or free in relation to an "original."

Between Yesterday and Tomorrow brings this mapping endeavor to center stage. The viewer lands on an imaginary island, crossed by the International Date Line, divided between the bright of day and a starry night, between East and West—a space that holds the secret to our human measuring of earthly time, and thus to the arbitrary origin of the mapping of time onto space. An artificial island rather than a desert island, architecturally planned and constructed: a site for contemplation. Can we ever learn to inhabit it?

Imposing itself at the center of the island, the Date Line appears as a paradigmatic site of translation, an imaginary border that constitutes the very condition of its possibility. And as a site of the encounter and fusion of separate temporalities in a single poetic instant, the secret it holds is also that of radical contemporaneity.

Drawing from the insights of semiotics and the natural sciences, Detanico and Lain's approach to mapping and coding is nonetheless never simply scientific. Their rigor is of an entirely different order than that of Jorge Luis Borges's cartographers, who managed to draw the map of an entire empire on a 1-to-1 scale, so that each sign coincided exactly with the actual geographic place it represented as if in an utopic communion between the real and the imaginary. What we find here is, instead, a problematization of the arbitrary nature of our very representations of the universe, works that promote a conscious liberation of the creative signifying impulse from the conventional borders of time and space. Between the rocky waves of a Zen garden, what these works present to us is not a peaceful image of nature but the always-evasive object of both our science and our poetry: sense.

Biography

デタニコ レイン

フランス系ブラジル人作家のアンジェラ・デタニコとラファエル・レインはパリを拠点に活動している。デタニコレインの作品は、フランスのパレ・ド・トーキョー (Palais de Tokyo) やグラン・パレ (Grand Palais)、スウェーデンのストックホルム近代美術館 (Moderna Museet)、ブラジルのイベラ・カマルゴ財団 (Fundação Iberê Camargo) やパンプーリャ近代美術館 (Museu de Arte da Pampulha) やポルト・セグーロ文化センター (Espaço Cultural Porto Seguro)、東京の駐日ブラジル大使館などで展示されている。2004年にドイツでナム・ジュン・パイク・アワードを受賞。2007年には第52回ヴェネチアビエンナーレでブラジル館を担当。フランスで手掛けたパブリックアートには、パリの地球物理学研究所 (Institut de Physique du Globe) の常設インスタレーションや、ルーブル美術館が近年リエヴェンに新たに開設した修復センターのためのコミッションワークなどがある。

Detanico Lain

Angela Detanico (1974) and Rafael Lain (1973) are French-Brazilian artists living and working in Paris. Their work has been shown in different countries and venues such as Palais de Tokyo and Grand Palais, (France); Moderna Museet (Sweden); CCS Bard Hessel Museum (USA); Mudam (Luxemburg); National Museum of Contemporary Art (Greece); ICC (Japan); Laboratorio de Arte Alameda (Mexico); Malba (Argentina); and Henry Moore Institute (England). They took part in several international exhibitions as 3rd Media City Seoul, Echigo-Tsumari Art Triennial 2006, 10th Bienal de la Havana and the 26th, 27th and 28th São Paulo Biennials. They presented individual exhibitions at Jeu de Paume, Musée de l'Abée Sainte-Croix and Musée Zadkine (France), Museu Coleção Berardo (Portugal), Fundação Iberê Camargo, Museu de Arte da Pampulha and Espaço Cultural Porto Seguro (Brazil) and Brazilian Embassy in Tokyo, among others. In 2004 they received the Nam June Paik Award, in Germany. In 2007, they represented Brazil at the 52nd Venice Biennial. In France, they did several public art works, including a permanent installation for the Institut de Physique du Globe in Paris, and a piece commissioned by the Louvre Museum for its new Conservation Center in Liévin, recently inaugurated.



Selected Collections

パブリックコレクション

- Andrea and José Olympio Pereira (São Paulo)
- CIFO - Cisneros Fontanals Art Foundation (Portugal)
- Cnap - Centre national des arts plastiques (Paris/France)
- Isabel and Agustion Coppel Collection (Mexico)
- FMAC Fonds municipal d'art contemporain de Genève (Genève)
- FRAC Île de France/Le Plateau (Paris/France)
- Kerenidis Pepe Collection (Paris/France)
- Le Silo, Collection Billarant (Marines/Franc)
- Cnservation Center in Louvre-Lans (Liévin/France)
- MAC VAL (Paris/France)
- Museu de Arte Moderna Aloisio Magalhães (Recife/Brasil)
- Museu de Arte Moderna de São Paulo (São Paulo/Brasil)
- Museu de Arte da Pampulha (Belo Horizonte/Brasil)
- Museu de Arte do Rio (Rio de Janeiro/Brasil)
- Pedro Barbosa (São Paulo)
- Pinacoteca de São Paulo (São Paulo/Brasil)
- Collection Lambert (Avignon-France)



[Exhibition]

Between Yesterday and Tomorrow Detanico Lain

November 23, 2019 — January 5, 2020

THE CLUB

Translated by Masamichi Tamura, Aquiles Hadjis

Photo by Kei Okano

Printed by SunM Color Co., Ltd

Published by THE CLUB

GINZA SIX 6F, 6-10-1 Ginza, Chuo-ku, Tokyo, Japan

Tel : 81-3-3575-5605

info@theclub.tokyo <http://www.theclub.tokyo>

Sales Agency BIJUTSU SHUPPAN-SHA CO., LTD.

5F, Meguro Central Square, 3-1-1 Kamiosaki, Shinagawa-ku, Tokyo

Printed in Japan ©2019 THE CLUB

All rights reserved.

[展覧会]

Between Yesterday and Tomorrow デタニコ レイン

2019年11月23日(土) — 2020年1月5日(日)

THE CLUB

翻訳 田村将理 アキレス・ハッジス

写真 岡野圭

印刷 株式会社サンエムカラー

発行 THE CLUB

東京都中央区銀座6丁目10-1 GINZA SIX 6F

Tel : 03-3575-5605

info@theclub.tokyo <http://www.theclub.tokyo>

発売 株式会社美術出版社

東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア 5F

発行日 2019年12月16日

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。

ISBN978-4-568-10526-1 C3070

